



家庭通信 2月号

2026年1月30日

学校法人 織田学園

おだ認定こども園

寒さの中でも、子どもたちは園庭の霜柱を見つけたり、冷たい風に向かって走り出したりと、五感をフルに使って「今」を楽しんでいます。毎朝、ちいさいクラスの子どもたちが手をつなぎ、「行ってきます！」とお散歩に出かけていく姿はとても微笑ましいものです。「ただいま！」と頬を赤くして意気揚々と帰園した子どもたちは、「楽しかったよ」「公園に行ってきたんだ」と自慢げに報告してくれます。遠くの公園まで歩けるようになった姿は頬もしく朝日のようにまぶしく映ります。

さて、日本で最も歴史ある『お茶の水女子大学附属幼稚園』が、今年で150周年を迎えます。かつて園長を務められた津守真先生は、こんな素敵なお言葉を遺されました。『子どもが始めたことをまず大切にし、肯定し、それを共に味わい、一緒に生きる。それが育つ場である』大人が決めたメニューではなく、子どもがふと立ち止まって見つめる霜柱への『なぜ？』『やりたい！』『知りたい！』という心の芽を、私たち大人が一緒になって面白がること。それこそが、何より子どもの好奇心を豊かに育てくれるのだと、改めて感じています。

この『探究心を大切にする保育』をさらに深めるため、本園は今月から『とうきょう すぐわくプログラム』のナビゲーター園として、他の園の先生方と学び合うリーダー的な役割を担うことになりました。先生同士で知恵を出し合い、子どもたちにとってさらにワクワクする毎日を作りたいと考えています。活動の様子は、園や東京都のホームページでも紹介していますので、ぜひのぞいてみてください。

今月も、子どもたちの小さな発見に一喜一憂しながら、寄り添う時間を大切に過ごしていきたいと思います。

2月のねらい

＜年長組＞

- ・様々な遊びに興味を持ち挑戦したり工夫したりして、楽しむ
- ・友達と一緒に一つのことに向かって意欲的に取り組み、満足感を味わう
- ・自分の力を発揮しながら遊びや生活を進めていく

＜年中組＞

- ・進級することに期待を持ち、進んで活動に参加しながら園生活を楽しむ
- ・いろいろな友達と関わったり、遊んだりすることを楽しむ
- ・集団で心地良く生活する為の基本的な習慣や態度が分かり、自分から行おうとする

＜年少組＞

- ・園生活に見通しを持ち、自分の身の回りの事を行なおうとする
- ・戸外で簡単なルールのある遊びや全身を動かしてあそぶ事を楽しむ
- ・色々な友だちと関わり、好きな遊びを楽しむ
- ・保育者と一緒に冬の自然を見つけたり興味を持ったりする

＜2歳児＞

- ・身の回りにことをやってみようとした喜びを感じる
- ・ひかり組との交流を通していろいろな人と関わることを楽しむ
- ・冬の自然に気付き、保育者と一緒に触れたり感じたりすることを楽しむ

＜1歳児＞＜0歳児＞

0.1歳児は個別のねらいを立てています。